⑩日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

[®]公開特許公報(A)

昭64-52439

@Int_Cl.*

識別記号

庁内整理番号

❸公開 昭和64年(1989)2月28日

A 61 B 8/14 G 01 N 29/06

8718-4C 6928-2G

審査請求 未請求 発明の数 1 (全8頁)

9発明の名称 超音波診断装置

②特 顧 昭62-209257

❷出 願 昭62(1987)8月25日

70 発明者 紅 義 朗

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社

内

^⑦発明者 阿部 芳孝

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社

内

⑪出 願 人 富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

四代 理 人 弁理士 伊東 忠彦 外1名

明精智

発明の名称
超音波診断装置

2. 特許請求の範囲

超音波反射波から得たディジタルデータを出力 するデータ出力手段(1)と、

験データ出力手段(1)からのディジタルデータを選ぎ込まれるメモリ手段(2)と、

鉄メモリ手段(2)から読み出されたディジタルデータに対して所定の重み付けを行なう n² (ただし、nは整数)側の重み付け回路(3₁~ 3n)と、

鉄通み付け回路(3」~3m)で所定の選み付けをされたディジタルデータを順次表示用の函像データに変換する画像データ生成手段(4)と、

護爾像データ生成手段(4)からの褒示用の画像データを表示する表示手段(5)とを有する超音波診断装置において、

鉄メモリ手段(2)は、アドレスが2xn系校 でありn² 個からなるメモリバンク構成を有し、

数メモリ手段(2)に書き込まれているディジタルデータのうち、前記所定の値み付けを行なうのに必要な n² 個のディジタルデータは、2× n 系統のアドレスで同時に 読み出されて該値み付け回路(3:~3m)に供給されることを特徴とする組音放送断装置。

3. 発明の詳細な説明

(概要)

お音数反射波から得たデータを表示用の画像データに変換する超音波診断装置に関し、

超音数反射波から得たデータを、メモリパンク 構成のメモリを用いることにより高速で表示用の 簡量データに変換可能とすることを目的とし、

超音数反射被から得たディッタルデータを出力 するデータ出力手段と、 該データ出力手段からの ディッタルデータを書き込まれるメモリ手段と、

(産業上の利用分野)

本発明は超音波診断装置、特に超音波反射波から得たデータを表示用の画像データに変換する超音波診断装置に関する。

人体の各部位を映像によって健康が疾病がの料

有する。通常、このメモリとしてはダイナミック・ランダム・アクセス・メモリ(DRAM)が使用され、高速な処理を行なうために 1 両面分以上のラインメモリを備えている。近年、DRAMの集積度は向上し、書き込み及び読み出し速度も高速になっているので、ディジタルスキャンコンパータのメモリとしては大容量のメモリを使用し得る。

なお、表示用の画像データをテレビジョン・モニタに表示する際、ディジタルスキャンコンパータのメモリから読み出したデータに対して重み付けやスムージング等の適像処理を行なう場合もある。

・第5図は従来の紹音被診断装置の観成の一例を示す。又、第6図は、第5図の従来を設めりニア型和音被診断装置の場合の超音液反射液から符たデータと表示用の画素データは「●」印で示し、表示用の画素データは「△」印で示す。例えば、表示用の画素データのは、超音波反射液から得た

別をする診療法として、画像診断法がある。画像 診断を行なう診断装置の一例として、超音波を用 いて診断を行なう超音波診断装置がある。

〔従来の技術〕

ディジタルスキャンコンパータは、超音波反射 彼から得たデータを収集順におき込み、表示に適 した順序で格納されたデータを読み出すメモリを

データ(1)、(2)、(3)、(4)に所定の 重み付けをして得たデータであり、表示用の書楽 データ②は、超音波反射波から得たデータ(3)、 (4)、(5)、(6)に所定の思み付けをして 得たデータである。

へ転送し、データ(2)を絞み出してパッファ 3 7 へ転送し、データ(3)を絞み出してパッファ38 へ転送し、次にデータ(4)を絞み出して パッファ39 へ転送する。メモリ34の読み出し アドレスはアドレス制御回路35により制御され、 パッファ36~39へのデータの転送はパッファ 精御回路40により制御される。

図である。

(作用)

本発明では、超音数反射波から得たディジタルデータは、アドレスが2× n 系統であり n z 個からなるメモリバンク構成のメモリ手及2に由き込まれる。従って、所定の重み付けをするのに必要

(発明が解決しようとする問題点)

世来の都被診断新衛子、1344からのの時間では、行なわれず39付れで36~39付れで36~39付れて36~39付れるのがあるには、136付ののでは、136付ののでは、136付ののでは、136付ののでは、136付ののでは、136付のでは136付のでは、136付のでは

本発明は、超音波反射波から得たデータを、メモリバンク構成のメモリを用いることにより高速で表示用の衝像データに変換可能とする超音波診断装置を提供することを自的とする。

(岡暦点を解決するための手段)

第1図は、本発明の経音波診断装置の原界説明

なディジタルデータは、2×n系統のアドレスで 岡時に競み出すことが可能であり、重み付け回路 31~3mで所定の意み付けをされたディジタル データは高速で得られる。

(実施例)

B4にのみ格納されるようにおき込みアドレスが アドレス制弾回路15により制御される。

つまり、ディジタルデータをラインメモリ14 に狙き込む際、第1ライン中1番目のデータはメ モリバンクMB1のロウアドレス及びコラムアド レスが夫々0番地であるアドレスに由き込まれ、 2番目のデータはメモリバンクMB2のロウアド レス及びコラムアドレスが夫々0番地であるアド レスに書き込まれる。又、第1ライン中3番目の データはメモリバンクMB1のロウアドレスが1 香地でコラムアドレスが0番地であるアドレスに 音を込まれ、4番目のデータはメモリバンクMB 2のロウアドレスが1番地でコラムアドレスが0 香地であるアドレスに遵き込まれる。以下頑様に して、第1ライン中の奇数番目のデータがメモリ パンクMB1に書き込まれ、偶散番目のデータが メモリパンクMB2に魯き込まれる。他方、第2 ライン中の存数器目のデータがメモリバンクMB 3に書き込まれ、偶数番目のデータがメモリパン クMB4に書き込まれる。この様にして、アドレ

例えば、メモリバンクMB1~MB4の第3図 (C)に製地に示すアドレスがデータを決ンクMB1で一タを決シクMB2がデモリバメモリバメモル、カロウアドレスをレスアドレスをレスアドレスのロウスアドレスののロウムアドロスののB2、MB1では、カロロンのMB4、MB3のMB2、MB2では、カロロンのMB1~MB1では、カロロンのMB1~MB1では、カロロの対応は、カロアドレスのデータは周時に洗りに、は、カロアドレスのデータは周時に洗りに、大きないが、カロアドレスのがある。

ス制御回路15によりメモリバンクとそのロウアドレス及びコラムアドレスを排定することにより、奇数番目のラインの奇数番目及び偶数番目のデータは交互にメモリバンクMB1及びメモリバンクMB2に歯き込まれ、偶数番目のラインの奇数番目及び偶数番目のデータは交互にメモリバンクMB3及びメモリバンクMB3次びメモリバンクMB3次びメモリバンクMB3次ではき込まれる。

ン・モニタ等の表示装置23に供給され表示される。 なお、境み付けテーブル20及びフレームメモリ22は夫々アドレス制御回路15の出力信号により制御される。

本実施例によれば、第2回及び第5回を比較すれば明らかな知く、第5回に示す従来装置のデジタルスキャンコンパータのパッファ36~39及びパッファ制御回路40が不要であり、その分組音波誘系装置の構成及び制御が簡単となる。

なお、第2四中、紹音放課触子11.受信回路 12. A/D変換器13は第1回のデータ出力手段1を構成し、ラインメモリ14はメモリ手段2 を構成する。又、重み付け回路16~19は選み付け回路3ょ~3mのm-4の場合に対応しており、加算器21及びフレームメモリ22は配子・タ生成手段4を構成する。更に、表示装置23は表示手段5を構成する。

上配実施例では、説明の便宜上メモリ手段2は アドレスが2×n系板でありn² 倒からなるメモ リパンク構成を有するn-2の場合についての説 明である。しかし、本発明は n が3以上の場合にも適用し得ることは含うまでもない。第4図は、n=3の場合の実施例のメモリバンク構成を示す。第4図から明らかな如く、この実施例ではメモリバンクはMB1~MB9なる9(n²=3²)割からなり、アドレスの類定は6(2×n=2×3)系統で行なうことができる。つまり、必要とされる重み付けがより複雑となりnの値が大きくなる役少ないアドレス系統数でアドレスを指定し得るという効果が顕著となる。

(発明の効果)

本発明によれば、デジタルスキャンコンパータのメモリをアドレスが2×n系統でありn² 個からなるメモリバンク構成としているので、量み付けを行なうのに必要なn² 側のディジタルデータは2×n系統のアドレスで同時に読み出すことが可能であり、このため超客を反射被から得たデータを高速で表示用の画像データに変換可能であり、又、母来の装置の如くパッファやパッファ制御図

路を設ける必要がないためその分組含故診所装置の構成及び制御が簡単となり、更に、必要とされる強み付けがより複雑となりnの値が大きくなる 程少ないアドレス系統数でアドレスを指定し得る という効果が順著となり、実用的に極めて有用で

4. 呂面の簡単な説明

第1図は本発明の原理説明図、

第2図は本発明の一実施例のプロック系鉄図、 第3図はラインメモリのメモリバンク構成の一 実施例を示す図、

第4 図はラインメモリのメモリバンク構成の他 の実施例を示す図、

第5因は従来装置のプロック系統因、

第6因は超音波反射波のサンプリング点と超音 波斯顕動の表示位置との関係を示す因、

第7因は従来のラインメモリの説明図である。

第1四~第4回において、

1はデータ出力手段、

2はメモリ手段、

3 1 ~ 3 x は 重み付け 国路 、

4 は画像データ生成手段、

5 は表示手段、

11は超音波探触子、

12は受信回路、

13はAノD変換器、

14はラインメモリ、

15はアドレス制御回路、

16~19は重み付け回路、

20は貫み付けデータテーブル、

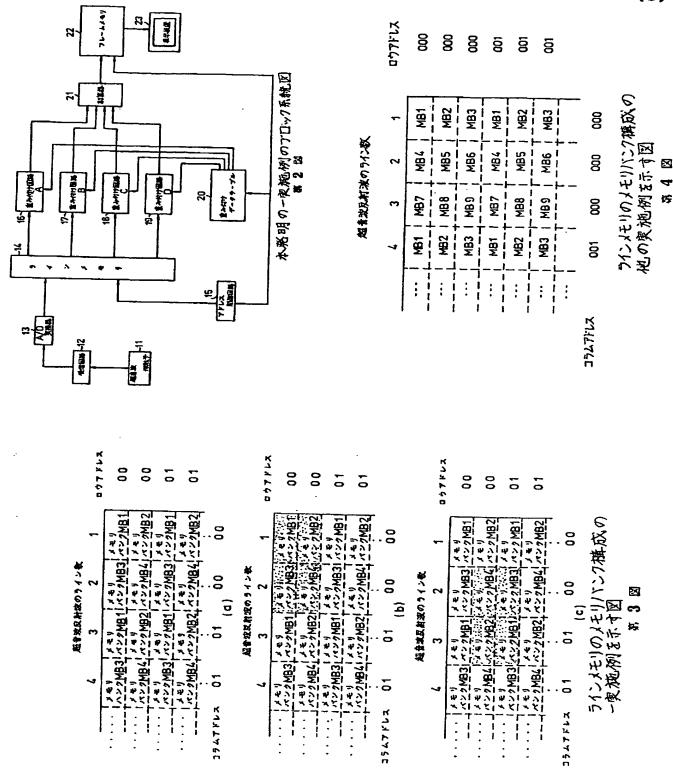
21は加算器、

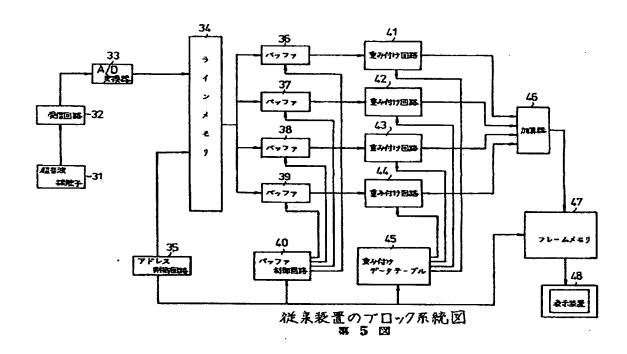
22はフレームメモリ、

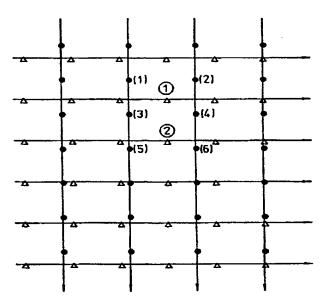
23は表示装置、

MB1~MB9はメモリバンクを示す。

at 1 (2)







超音波反射波のサンプリング点と超音波 断層像の表示位置との関係を示す図

36 🖾

